

## 九州大学附属図書館デジタル化画像公開ガイドライン

平成 28 年 2 月 26 日 附属図書館運営会議決定

### (趣旨)

- 1 本ガイドラインは、九州大学附属図書館所蔵資料のデジタル化画像を図書館ホームページからインターネットで公開する際の可否判断の指針である。オープンサイエンス推進の観点から、デジタル化画像は広く公開することが望ましい。しかし、一方で人権・プライバシーへの十分な配慮が必要であることから、本ガイドラインを定める。

### (対象となる資料)

- 2 附属図書館(記録資料館を含む)の所蔵資料のうち、著作権の保護期間を経過したもの。

### (公開可否の判断)

- 3 公開可否の判断は附属図書館が行う。
- 4 以下に該当する情報が資料に記録されている場合は、当該情報の具体的性質や当該情報が記録された当時の状況等を総合的に勘案し、公開の可否を判断する。なお、当該情報に該当する可能性のある具体例及び判断の必要性の目安となる時代区分は、別表に示すとおり。
  - (1) 個人に関する情報で、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別できる情報又は特定の個人を識別することはできないが、公にすることにより個人の権利利益を害するおそれのある情報
  - (2) 法人その他の団体に関する情報又は事業を営む個人の当該事業に関する情報で、公にすることにより当該法人等又は当該個人の権利、競争上の地位その他正当な利益を害するおそれのある情報
- 5 公開可否の判断にあたっては、必要に応じて以下に則り専門的な見地からの助言を求めることができる。
  - (1) 原則として当該資料の所在部局に所属する研究者に依頼する。
  - (2) 当該資料の所在部局に適切な者がいない場合は、所在部局以外の学内研究者に依頼することができる。
  - (3) 当該資料の調査・研究に伴いデジタル化された場合は、調査・研究を行う者(学外研究者を含む)に依頼することができる。

### (適用の除外)

- 6 本ガイドラインに基づく判断にかかわらず、以下の資料は公開しない。
  - (1) 寄贈、寄託された資料で、寄贈者、寄託者が公開否の意向を示した資料。
  - (2) 当該資料の所蔵館・室において、メタデータ公開、閲覧利用、複写利用のうち、少なくとも1つを許可していない資料。

### (その他)

- 7 公開中のデジタル化画像の取り扱いに関する事項は、当該分野を専門とする研究者等の意見を参考にしつつ、附属図書館が検討して定める。

別表(公開可否判断が必要と考えられる情報)

時代区分	記録されている情報	該当する可能性のある情報の具体例
江戸期以前	個人の特に重大な秘密であって、当該情報を公にすることにより、当該個人及びその遺族の権利利益を不当に害するおそれのあるもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 門地</li> <li>・ 遺伝性の疾病、精神の障害、その他の健康状態</li> <li>・ 犯罪歴又は補導歴</li> </ul>
明治期以後	個人の重大な秘密であって、当該情報を公にすることにより、当該個人の権利利益を不当に害するおそれのあるもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国籍、人種又は民族</li> <li>・ 家族、親族又は婚姻</li> <li>・ 信仰</li> <li>・ 思想</li> <li>・ 伝染性の疾病、身体の障害、その他の健康状態</li> </ul>
	個人の秘密であって、当該情報を公にすることにより、当該個人の権利利益を不当に害するおそれのあるもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学歴又は職歴</li> <li>・ 財産又は所得</li> <li>・ 採用、選考又は任免</li> <li>・ 勤務評定又は服務</li> </ul>
	法人その他の団体の営業秘密であって、公にすることにより、当該法人又は当該個人の競争上の地位その他正当な利益を害するおそれのあるもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不正競争防止法（平成5年法律第47号）第2条第6項に規定する営業秘密</li> </ul>

※「記録されている情報」及び「該当する可能性のある情報の具体例」は、埼玉県立文書館「文書館資料の利用に関する基準」別表の記述に拠る。